

29年2月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 2月1日～ 29年2月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
入荷動向	スギ	0.0	20.0	40.0
	ヒノキ	△ 25.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 20.0	△ 20.0
	トドマツ	33.3	33.3	0.0
消費動向	スギ	16.7	40.0	40.0
	ヒノキ	50.0	25.0	0.0
	カラマツ	16.7	20.0	20.0
	トドマツ	0.0	66.7	66.7
在庫動向	スギ	△ 16.7	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 25.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 20.0
	トドマツ	33.3	0.0	△ 33.3

・スギ合板原木の入荷は2月の横ばいが、3月、4月は増加。ヒノキは2月の減少が、3月、4月は横ばい。カラマツは3ヵ月連続して減少。トドマツは2月、3月の増加が4月は横ばい。

・国産合板原木の消費は総じて3ヵ月連続して増加。

・スギ及びヒノキの合板原木の在庫は2月の減少が、3月、4月は横ばい。カラマツは2月、3月の横ばいが4月は減少。トドマツは2月の増加が、3月は横ばい、4月は減少。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/2月	3月	4月
スギ	16.7	20.0	40.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	60.0	50.0	25.0
米マツ	66.7	66.7	33.3
北洋カラマツ	66.7	66.7	33.3
その他	0.0	0.0	0.0

・スギ及びカラマツの合板用原木の購入価格は強含みで推移。ヒノキは3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ及び北洋カラマツは強含みで推移。その他は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・生産量に合わせ入荷。多少、雪の影響で遅れて入荷する時があるが、生産には問題なし。製品の種類、枚数で多少の増減はあるが、消費はほぼ横ばい。在庫もほぼ横ばい。
・スギは順調に入荷、カラマツが難。在庫はカラマツ以外は横ばい。
・新工場の3月本格稼働を見込み、3月より全体的に入荷量は増加。消費量も増加。在庫は横ばい。
・カラマツを少なくし、アカマツを増やし、入荷全体では変わらず。消費は変わらず。相変わらずカラマツの在庫が多い。
・全品種で入荷減少、特にスギが減少。スギ材の減少で他材が消費増。在庫は全品種で減少。
・製材も含めて動きが良いため、なかなか入荷が増えない。製材の動きが落ち着くまでは入荷の悪い状況が続くだろう。在庫は天候次第だが、今から出材が増えて来る。在庫も増やして行く。

(原木価格)

・去年の10月頃から変わらない。
・スギは横ばいだが、良材を求めると上昇中、カラマツは日々上昇。
・スギは横ばい。カラマツは春先まで上昇気配。外材も春までは上昇気配、米マツは上昇傾向、北洋カラマツは高止まり。
・出材量が少なめのため、多少高めの価格。
・地域以外での突発納材は上昇。
・購入価格は高値で推移、在庫が溜まるまでは価格は維持する。

29年2月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
生産動向	構造用(9mm)	△ 20.0	25.0	25.0
	〃 (12mm)	57.1	33.3	33.3
	〃 (15mm)	△ 14.3	0.0	0.0
	〃 (24mm)	42.9	50.0	50.0
	〃 (28mm)	42.9	50.0	50.0
出荷動向	構造用(9mm)	0.0	20.0	△ 20.0
	〃 (12mm)	42.9	33.3	16.7
	〃 (15mm)	△ 14.3	16.7	16.7
	〃 (24mm)	28.6	50.0	16.7
	〃 (28mm)	14.3	33.3	16.7
在庫動向	構造用(9mm)	△ 16.7	△ 20.0	40.0
	〃 (12mm)	△ 28.6	△ 33.3	16.7
	〃 (15mm)	0.0	0.0	33.3
	〃 (24mm)	△ 28.6	△ 33.3	0.0
	〃 (28mm)	△ 28.6	△ 33.3	0.0

・構造用合板の生産は、9mmが2月の減少から、3月、4月は増加。15mmが2月のやや減少から、3月、4月は横ばい。それ以外の12mm、24mm、28mmは3ヵ月連続して増加。

・構造用合板の出荷は一部に減少、横ばいがあるものの、総じて増加傾向。

・構造用合板の在庫は、15mmが2月、3月の横ばいから、4月は増加。それ以外の9mm、12mm、24mm、28mmは2月、3月の減少が、4月は横ばいなし増加。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/2月	3月	4月
構造用(9mm)	50.0	40.0	40.0
〃 (12mm)	42.9	0.0	0.0
〃 (15mm)	28.6	0.0	0.0
〃 (24mm)	42.9	0.0	0.0
〃 (28mm)	42.9	0.0	0.0

・構造用合板の出荷価格は9mmは強含み。12mm、15mm、24mm及び28mmは強保合で推移。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・総生産は変わらず。客先より12mmの要望が増、その分9mm、15mmを減。生産分をほぼ出荷。在庫は全品目が低水準で横ばい。
- ・2月は稼働日少なく、3月より生産増。出荷はいまだに旺盛、翌月、翌々月は不明。在庫は4月に若干増えるか。
- ・12mm、24mmの生産増を見込み。全体的に構造用の動きは良い。12mm、24mmを中心に出荷良い。工場在庫は少ない。
- ・少量生産につき、生産、販売変わらず。
- ・生産はフル稼働。納期までの対応に全力。在庫は全品種で減少。
- ・フル生産が続く。発注状況に合わせての生産。12mm、ネダノンの引合いが強く、生産状況に合わせての出荷。在庫は低水準のまま増える状況にないが、一服感が出てくると徐々に在庫も増えて来る。

(構造用合板の価格)

- ・1月に続き今月も全品目で値上げ。
- ・2月は新単価、翌月以降横ばい、但しクォーター決めは上昇へ。
- ・変わらず。
- ・新価格の発表で値上げが進む。
- ・円安による原木価格、接着剤（フェノール価格）等コストアップの要因が出始める。見通しは上昇傾向であるが、様子見の状態。